

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻						
教育プログラム・コース名	高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース						
対象者	医学薬学教育部薬学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<p>がん化学療法のほぼ全てがレジメンに基づき行われ、多くが外来通院で実施されるようになってきている。レジメンの作成や管理、外来化学療法室での医薬品管理や患者への化学療法の説明に加え、緩和医療チームへの参画など薬剤師のがん治療に対する貢献度が特段に増してきている。これらのことについては、日本病院薬剤師会等によって、数多くの講習や実習を含む事業がなされており、基礎的な事柄は6年制薬学部での教育内容に含まれてきている。そこで、我々は、現在の薬剤師を越える高度薬剤師の輩出を目指す。病院における、がん治療や緩和医療の個別化医療に加え、地域包括ケア制度に策定に伴う在宅での抗がん剤や緩和医療への貢献ができる人材の養成をしたい。特に富山県は、三世帯同居率が高く、制度の整備とともに、病院薬剤師とかかりつけ薬剤師が連携を持って、治療にあたる体制が構築されつつあることから、大学院生レベルで、医療現場で演習を行うことは意義の高いことである。加えて、国立大学薬学部として、10年後の医療を担う人材の育成も想定し、次世代のゲノム医療にも深い理解を持つ人材を養成したい。</p>						
修了要件・履修方法	<p>&lt;修了要件&gt;所属専攻の修了要件単位数（30単位）に加え、北信がんプロフェッショナル授業科目6単位（必修科目5単位、選択単位1単位以上）を修得し、合計36単位の修得及び、研究論文が学位論文審査に合格すること。</p> <p>&lt;履修用法&gt;授業はe-learning及び対面で行う。在宅医療に関する実習については地域病院と共同して実施する。演習・実習科目は金沢大学薬学系が開講する科目の履修を認め、単位互換を可能とする。</p> <p>&lt;単位認定&gt;e-learning各科目の単位認定は、e-learning科目の合格とオンコロジーセミナーの出席により所定の単位を認定する。</p>						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;分子腫瘍学特論、臨床統計学特論、臨床栄養学特論（各1単位）、がん治療におけるゲノム医療演習（1単位）、地域包括医療でのがん治療演習（0.5単位）、ライフステージ事例検討演習（0.5単位）</p> <p>&lt;選択科目&gt;腫瘍薬物学特論、がん緩和医療学特論、腫瘍放射線医学特論、腫瘍病理学特論、臨床腫瘍学特論、分子生物学入門（各1単位）、臨床疫学、最先端医療、AYA世代診療、腫瘍学（各2単位）、がんゲノム学特論、在宅緩和ケア特論、老年医療学特論（各1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>国立大学での6年制薬学教育を受け、薬剤師免許を有する博士課程薬学専攻の学生を対象とすることから、15年後の日本のがん治療を薬学的観点から担える人材の育成を意識している。現在の病院・薬局薬剤師が、すでに行っていることだけでなく、大学でしか実施できない高度な内容を含む。本プログラムから開始されるがん治療におけるゲノム医療の講義については、講義に加え、実習や遺伝子多型の検出、それらへの抗がん薬との治療効果などについて、深く学ぶシステムをとる。在宅でのがん治療に参画できるだけの薬剤師としての養成だけでなく、地域で他の職種との連携の要となれるよう本学独自の在宅研修ラボを使用して演習をし、加えて、医療現場での実習も行う予定である。演習、実習科目は、金沢大学附属病院での実施分も富山大学の大学院生も履修可能として単位認定できるようにし、富山大学での実施分も両大学の大学院生が履修できるようにし、大学間連携を持ち、地域で薬剤師としての医療を支えることを体験する。</p>						
指導体制	<p>富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻の統括は、医学薬学研究部・薬物治療学研究室 新田淳美教授が担当する。さらに、地域医療における薬剤師職に関する実習のために、同医療薬学研究室 藤 秀人教授が実習の計画に参画する。また、がん治療へのゲノム医療に関する講義や演習については、同がん細胞生物学 櫻井宏明教授が担当する。</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>全国の医学部附属病院へ薬剤師として勤務し、日本医療薬学会認定のがん薬物療法認定薬剤師を目指し、将来的には、がん専門認定薬剤師やがん専門指導薬剤師の取得をする。6年制薬学部卒業後、4年制の薬学専攻の大学院への入学生は全国でも100名前後であり、特に国公立大学卒業生には、将来の大学病院薬剤部長としての期待がなされている。または、厚生労働省等の中央官庁に勤務し、がん治療を含む行政職につき、日本の薬学関連の医療をリードする。</p>						
受入開始時期	令和2年4月または10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31/R1年度	R2年度	R3年度	計
	大学院学生	/	1	1	1	1	4
	計	0	1	1	1	1	4